

雪に感動！滑る喜び、民泊家庭のぬくもり

大山町・嘉手納町人材育成交流事業

沖縄県嘉手納町から小学5年生16人が来町



▲大山小学校で踊りを披露する嘉手納町の児童たち

旧大山町と嘉手納町が、ともに国体のソフトボール会場になったことが縁で、毎年夏と冬に児童が交互に訪問しているこの事業。21回目の今回は、嘉手納、屋良の両小学校の5年生16人が、1月27日から30日までの3泊4日の日程で町内を訪問しました。同級生の8家庭にホームステイしながら、スキー体験や学校訪問を通して交流を深めました。

天候に恵まれ交流スタート

直前の週末には、平野部にも雪が積もり天気が心配されましたが、訪問中は抜群の天候に恵まれ、まさに沖縄から青空を連れてきてくれたかのようにでした。

27日昼前に那覇空港を出発した訪問団は、午後5時半ごろ大山公民館に到着。関係者の歓迎を受けて民泊家庭の児童、保護者と対面



▲5年生同士がグラウンドでそり遊び

しました。初めての出会いお互い少し緊張しながら、挨拶や握手を交わし、交流がスタートしました。28日は、嘉手納町の児童たちは、まず名和農業者トレーニングセンターにあるロッククライミングボードに挑戦。そのあと、町の風車、太空海号を見学しました。次に大山小学校を訪問し、まずは小学校敷地内に残る雪に感動。全校あげての盛大な歓迎を受けました。嘉手納町の児童たちは、町の偉人「野國總管」についてのスライド紙芝居を披露しました。全

学年との交流会後は、5年生同士で一面真っ白の小学校グラウンドで、そり遊びや雪合戦をしました。待望の雪にはしゃぎつつ、同年代同士すぐに打ち解けて楽しみました。その後、沖縄には無い列車に乗車し境港へ。水木しげるロードを訪れました。

29日は嘉手納町の児童たちが待ちに待ったスキー交流。指導員から歩き方や滑り方を教わりながら、民泊家庭の児童とともに初体験のスキーを堪能しました。ゲレンデの銀世界や雄大な大山の美しさは、児童の心に刻まれたことでしょう。

最終日には、仲良くなった大山町児童たちと今夏の再会を楽しみに、元気良く帰路に着きました。



▲大山をバックに民泊家庭の児童とスキー交流

編集後記

2月は寒さがゆるみ、周りの雪が消え、春を予感させる暖かい日が続きました。少し早い春を探そうと子どもと外を散歩したところ道端にふきのとうが数個頭を出しているのを発見。喜んでみると、なんとその近くに鳥の巣を発見！直径25センチくらいのやや大きめのこんもりとした巣。少し前に吹いた大風で飛ばされたようでした。珍しいのでよく観察してみると、かれ草や小枝、根などを使ってうまくできていて、内側には綿まで入っていました！「どんな鳥が住んでいたんだろうね」と話しながら自然に思いをはせた1日でした。K

毎月10日は
ノーズ袋デー



大山町広報 3月号 No.60

◆発行：大山町役場

◆編集：企画情報課

鳥取県西伯郡大山町御来屋328番地

TEL 0859-54-3111

FAX 0859-54-5216

大山町ホームページ

<http://www.daisen.jp/>

◆印刷：有限会社米子プリント社

この広報紙は、環境に配慮した再生紙を使用しています。



この印刷物は大豆インキを使用しております。